

# 謹賀新年

市民の皆様と一緒に  
活力あるまちづくりを目指す



牧之原市議会議員  
**小杉 康男**

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に満ちたすがすがしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。日頃は市議会に對しましてご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。昨年、多くの地方議員が地道に政策活動をしている中、政務活動費の在り方が全国的な注目を浴びるなど地方議会にとって残念な話題が多かったように思います。これら不信の根底には、活動が見えにくいなどのいらだちがあり、本来、住民に身近であるべきはずの議会が遠い存在となっている恐れすら感じています。東日本大震災から四年が経過しようとしています。被災自治体においては迅速な復旧・復興に向けて懸命な努力が行われているものの、公共施設の復旧、被災者の生活再建や地域産業の再生などは、まだまだ復興を遂げてはいません。また、福島第一原発事故に起因する放射性物質によ

る汚染問題への対応も遅れており、解決すべき困難な課題は数多く山積しています。一方、市の防災面では、昨年から津波避難タワー3基、避難ビル(商工会)の建設が始まっています。今年も引き続き避難タワー、いのち山などの建設を進めていきます。企業誘致を積極的に進めるなどして、東京への一極集中を止めるとともに人口減少に歯止めをかけなければ、限界集落が限界市町村になってしまいますので、皆様と一緒に活力あるまちづくりを目指していきたいと思っております。私も議長となり四年目を迎えました。現在、議会では議会改革の一環として、意見交換会などを開催し、市民の皆様の見解を行政に反映させるよう、政策提言に向け取り組んでいます。本年も市議会に對しましてご理解とご協力をお願いいたしますとともに皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。



牧之原市長  
**西原 茂樹**

市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。本年は戦後70年、牧之原市にとりましては誕生10周年という大きな節目の年です。市では、この大きな節目となる本年から、新たに策定した第2次総合計画をスタートさせます。計画では、「絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEXTまきのほら」を将来都市像とし、特に力を入れるべき5つの重点プロジェクトを掲げました。中でも、「輝く 高台開発プロジェクト」では、東名高速道路相良牧之原IC周辺への住宅、研究施設および商業施設の誘致、富士山静岡空港新幹線新駅の実現に向けた事業などを計画しています。静岡空港への新幹線新駅の設置は、2020年東京オリンピックに向けて需要が急増する成田、羽田空港を補完する機能を向上させます。また、国内初となる空港と高速鉄道の連結によって、新たな産業や雇用の創出、美しい牧之原

大茶園や駿河湾、特徴的な文化などを生かした国内外からの観光客の拡大を促進し、地域経済の活性化と定住人口の増加をもたらします。他方、市民の皆様と共に取り組んでいる津波防災まちづくり事業は、津波避難ビルやタワーの建設が着実に進んでいます。引き続き、避難施設や避難路などの整備を推進するとともに、命を守る防潮堤づくりを検討してまいります。昨年11月、「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、人口減少や東京圏への人口一極集中などの課題に、国と地方が一体となって取り組むこととなりました。本市では、この「地方創生」の動きを受け止めて、自らの知恵と努力でしっかりと立ち上がり、活力と希望にあふれる地域づくりに努めてまいります。本年も、皆様と共に「誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまち」の実現に向け、全力を尽くしてまいりますので、ご理解と市政へのご参加をお願い申し上げます。

誰もが住みたい、住み続けたいと思える  
まちの実現に向けて全力を尽くす